

「移動式灯籠まちの灯り」製作・活用事業

取組に至る背景・事業の目的

長野県の南の玄関口である南木曾町において、町の名所に灯かりをともし、夜間の景観と風情をかもし出すことによって世界的な観光地である妻籠宿とも連携した面的な宿泊滞在型観光客の増加を図りたいとの思いが結成10年来の組合総会の都度話題となっており、「それならば木曾らしい取組みとして、本体に木曾ヒノキを使った移動式の灯籠を製作し、国の近代化遺産である桃介橋や天白公園にイベントごとに設置して地域に元気を創り出そう」との機運が、町制100周年記念事業と相まって高まり、地域住民が一丸となって取組んだ。

事業内容

木曾ヒノキ材を用いて灯籠の頭の部分と支柱を製作し、灯かりに省エネ電球型蛍光灯を用い、灯かり周囲には雨風に耐えうる紙を張って中学生が絵付けした持ち運びできる灯籠を100本制作し、「天白公園お盆イベント」に合わせて桃介橋に取り付け、夜の風情をかもし出すことにより多くの誘客を図った。



【灯籠を点灯した桃介橋周辺の夜景】

事業効果

絵付けした中学生の家族をはじめ多くの町民が灯籠を一つひとつ見ながら桃介橋を渡って天白公園のイベントに訪れたほか、「妻籠陣屋太鼓」の演奏も相まって、これまでのお盆イベントには見られなかった妻籠宿からの宿泊客も浴衣姿で訪れていた。また、桃介橋を遠くから見ると灯籠の灯かりで橋が浮かび出て、夜間の風情をかもし出した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○工夫・苦労した点

- ・灯籠の大きさや形を決定するまでに木工場を経営する組合員に何度も試作品を作ってもらい、移動と格納のために灯籠の頭部と支柱をねじ止めで分離できるよう工夫したこと
- ・安価で消費電力の少ない省エネ電球を使用したこと、電球周囲には取外し・張替えできる木枠を別に製作してその周囲に雨風に耐えうる防水紙を両面テープで貼付けたこと
- ・灯籠絵文字の絵付けを中学生に依頼することで地域活動に関心を持たせたこと
- ・支柱に書く文字を墨字ではなくカッティングテープにして文字が消えないようにしたこと
- ・近代化遺産の桃介橋を傷つけないよう灯籠はわら縄で取付けたこと
- ・桃介橋専用の配線にして次回から電球ソケット取付け工事を不要したこと、など。

○課題や今後の取組

今回製作・設置した灯籠は常設ではないため、製作・組立・設置・配線・撤収・修繕などに手間がかかることや新たに製作する原資が無いことが課題であるが、今後は行政の支援が受けられれば、できるだけ多くの場所に設置し、事業目的に向かってまちに灯りをともしていきたいと考えている。

【選定のポイント】

桃介橋の夜間の景観向上により、宿泊滞在型観光客の増加につながるとともに、地場産木材の使用や中学生による絵付けは地域への誇りや愛着心を喚起させ、地域の活性化に寄与するものと期待できる。

団体名	桃介橋河川公園組合（南木曾町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	理事 山崎 隆二	事業費	471,047円
メールアドレス	ymzk@nt.purenet.ne.jp	支援金額	442,000円